

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)パール福岡建替計画 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		評価点		重み係数		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>						<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.6</b>	1.00				<b>3.7</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50				
1.2 遮音		<b>5.0</b>	0.50	<b>4.2</b>	0.50				
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2	<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30				
2 界壁遮音性能		-	-	<b>3.0</b>	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr-40	-	-	<b>5.0</b>	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	Lr-50	-	-	<b>4.0</b>	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00				<b>3.1</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00				
1 室温		<b>3.0</b>	0.63	-	-				
2 外皮性能	日本住宅性能表示「5-1断熱等級性能」における等級4相当	<b>3.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	1.00				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-				
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	-	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.4</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00				<b>3.3</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.43	<b>4.0</b>	0.50				
1 昼光率	<住居部分>2.0%以上	<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50				
2 方位別開口		-	-	<b>3.0</b>	0.30				
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20				
3.2 グレア対策		-	-	<b>4.0</b>	0.50				
1 昼光制御	カーテンと庇の2種類によりグレアを抑制	-	-	<b>4.0</b>	1.00				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.21	-	-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.36	-	-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00				<b>3.7</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63				
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00				
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38				
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開放可能な窓を確保	-	-	<b>5.0</b>	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-				<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>3.4</b>	1.00				<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	100Mbitクラスのプロードバンド設備を整備	-	-	<b>4.0</b>	1.00				
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40				
1 広さ感・景観	天井高2.5m以上	-	-	<b>4.0</b>	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50				
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30	-	-				<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.2</b>	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	免震構造	<b>4.0</b>	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.5</b>	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	品確法劣化等級における等級3相当	<b>5.0</b>	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主な用途上位3種のうち、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用	<b>5.0</b>	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
2.4 信頼性		<b>2.4</b>	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		<b>1.0</b>	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		<b>1.0</b>	0.20	-	-				
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	災害時にCATVにより情報が入手できる等	<b>4.0</b>	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>4.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高は3m以上	-	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.3	-	-	4.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.93	<b>3.7</b>	0.50	-	-	<b>3.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントB種:場所打ちコンクリート杭	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床シート:階段	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		木軸下地により分別が容易にできる	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満且つ、GWPが50未満の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制	<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明等を設置しないなど	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	